

## はじめに

戦時、廃墟と化した高炉も終戦後漸次立ち直りを見せ、今や日本の鉄鋼業の発展とともにその技術も世界的なものになりつつあります。

とくに最近10年の製鉄技術は各社の努力の積み重ねと、新しい技術の開発によつて飛躍的な発展をとげております。顧みれば昭和30年5月に製鉄技術の共同の研究の場として製鉄部会が発足し、当時7社の参画でありましたものが、今日では12社に拡大するにいたりました。そして現在まで18回の発表討論会を開催致しまして、共通の問題点を討論、解決し、わが国の製鉄技術の向上に努めております。この高炉技術者の積極的な研究と、たゆまぬ努力の結果、わが国の高炉出鉄量は昭和27年の327万tから、昨37年には1739万tと実に5倍増になり、また、ヨークス比においても大幅な低下を見て、世界に誇る水準になつております。

今般、ここにこの10年の製鉄技術の進歩を集大成して報告できる運びになりましたことを嬉しく思つております。長年にわたり当部会のために御尽力下さいました浅田前々部会長、小野田前部会長に対し深く感謝致しますとともに、本書の企画編集に際して各執筆委員をはじめ、編集委員の方々には御多忙中にもかかわらず、資料の提供と積極的な御協力を頂きまして心から感謝する次第であります。

今後、本資料を参考に、さらに技術の開発、進歩に努められ、わが国の製鉄技術の向上に役立てば望外の喜びとするところであります。

昭和38年3月1日

日本鉄鋼協会共同研究会

製鉄部会長 林 敏